

令和元年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	COME いな人 飲み屋さん
事業主体 (連絡先)	伊那商工会議所 (TEL 0265-72-7000)
事業区分	6、産業振興、雇用拡大
事業タイプ	ソフト・ハード
総事業費	4,518,215 円 (うち支援金 : 1,971,000 円)

事業内容

当所が実施した飲食店利用者に対するアンケートでは、もっと多くの方が飲食店の魅力を知ってほしいとの声があがっていた。そこで、地元企業の従業員の皆さん(約34,000人)に飲食店を知ってもらい多くの方が飲食店を利用してもらうために企業と協力して、伊那地域初となるプレミアムフライデーとコラボした街バル(飲み歩き)イベントを行った。また、今回のイベントをきっかけに、飲食店が中心となって、継続的に開催できるような土台作りをした。

- ・プレミアムフライデー 街バル事業 の実施
- ・令和元年7月26日(金)27日(土)伊那市内
- ・参加規模 約4,000人
- ・参加店舗 177店舗

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ①伊那の飲食店街に活気が出ていて、飲食店だけでなくタクシー・電車・代行などにも相乗効果が出た。
- ②今まで知らなかったお店を知ることによって新しい魅力発見ができた。新規客が入ったお店は約70%と回答あり。
- ③共通の冊子を通してたくさんの人に出会えて楽しい時間が過ごせたとの回答があった。誰と参加したかの質問項目では約70%が職場の人、もしくはそれに付随する友人となっていた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

普段とは違った賑わいのある街の光景になり、飲食店の魅力を発信できた。

IoT ハッカソンとの更なる連携によりお店の込み具合が分かるセンサーの活用につなげていきたい。

こうした取り組み等とも連携をとりながら、来年度以降実施するとなれば、開催規模や期間を検討したり、飲食店が自主開催できるような体制づくり、企業、地域一体となった取組みにより街の賑わいにつなげていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある



【イベントの様子】

【目標・ねらい】

- ①飲食店の魅力発信
- ②市街地の活性化
- ③住民の交流

※自己評価 【A】

【理由】

- ・普段とは違った賑わいのある街の光景になった。
- ・飲食店の魅力を発信できた。
- ・参加店との連携を早め且つ密にとるべきだった。